

本日、ここに、鹿島市議会平成30年3月定例会を招集し、新年度の各会計予算をはじめ、諸案件につきましてご審議をお願いするものでございますが、議案の提案に先立ちまして、鹿島市のこれまでの取組と最近の情勢などについて申し上げます。

## 【はじめに】

平成26年4月の市長選挙におきまして、私が、市民の皆様から再度のご信任をいただき、早いものでその任期も残すところ2か月余りとなりました。平成22年の市長就任以来、私は「新風創造」・「連携と発掘」を市政運営の原点として、「鹿島に生まれてよかった」、「鹿島に住んでよかった」、さらには「鹿島に住みたい」と言っていただけのように、この8年間、鹿島に新しい風を吹かせ、鹿島特有の地域資源を掘り起こして磨きをかけ、「魅力あるマチづくり」に邁進してまいりました。これまでの2期の市政を例えるならば、1期目は種をまき、2期目は花を咲かせ実を結ぼうとしているところまで来たように思います。

この間の主な取組について分野ごとに振り返ってみたいと思います。まずはじめに、「市民の皆様への安全・安心」についてでございます。東日本大震災や熊本地震、今年の九州北部豪雨など自然の猛威による災害を目の当たりにして、市民の皆様への安全・安心に対する意識はますます高まってまいりました。それに対しまして市では、「鹿島新世紀センター」の完成・運用や防災行政無線及び屋内放送システムの整備、そして、災害時に長期間にわたる避難生活にも対処できる避難所としての機能を備えた「東部中学校南校舎」の完成など、安全・安心の向上を重要施策として取り組んできました。特に、平成28年9月に供用を開始した鹿島新世紀センターは、ライフライン機能

を集約するため、上水道と下水道を所管する部署をセンターへ移転させており、毛布などの備蓄倉庫や災害時の対策本部としての機能を持つ施設であるとともに、防災の拠点としての役割を果たしております。また、同居している「杵藤農林事務所」とは、事務事業や災害対応時の情報共有など相互連携が図られ、これまでになかった効果が生まれております。このような運用形態の効用に着目して、神崎市や武雄市でも同様の形態による機関の同居が計画されていると聞いており、「鹿島モデル」と呼んでもいいのではと思っております。そして、防災行政無線と屋内放送システムは、避難や災害の情報だけではなく、警察署と連携し振り込め詐欺の注意情報なども各家庭に直接伝え、市民の皆様の安全・安心の一翼を担っているところでございます。

次に、「産業の振興」の分野につきましては、平成26年4月に運用を開始した産業活性化施設「海道(みち)しるべ」を拠点として、農商工連携や6次産業化に向けた取組を支援してまいりました。また、農業従事者の高齢化や後継者不足、農家数の減少など、依然として厳しい状況にある農業に対しましては、平成28年11月に「鹿島市緊急農業振興プロジェクト会議」を発足させ、中山間地の農業振興対策や鳥獣被害防止対策などの課題を柱に、現場の意見に耳を傾け、新規就農者や中核的農業者が「稼ぐ農業・儲ける地域農業」を目指していけるように取り組んでいるところでございます。

さらに、企業誘致においては、埼玉県川口市に本社があります「川島金属株式会社」が谷田工場団地へ進出されることとなりました。高速道路までのアクセスに時間がかかるという不利な条件の中ではありましたが、鹿島の地が古くからものづくりのまちであること、特に金属工業において高い技術水準を有していることを高く評価されたことが進出の決め手となりました。これからは、雇用拡大と地域経済の活性化に寄与していただけるものと考えて

おります。

それから観光産業の振興については、国から重点道の駅として選定され、干潟交流館等の整備を進めている「道の駅鹿島」、また肥前浜駅の駅舎が改修される「肥前浜宿」、さらに年間約300万人が訪れ新しく「鹿島祐徳御膳」を提供することとなった「祐徳稲荷神社と祐徳門前商店街」、これらの観光拠点が連携し、市内を回遊していただくことで、交流人口の拡大や滞在時間を増やす取組を行ってまいりました。

また、「子育て支援の拡充」や「福祉の向上」につきましては、平成26年11月にオープンしました市民交流プラザ「かたらい」が、たいそう注目を浴びる施設となっております。「かたらい」は、子どもから高齢者まで幅広い層の方が、「誰でも・いつでも・気軽に」利用できる施設としてお見えになられており、高齢者の健康づくりや子育て世代の支援の場、世代間での交流の場として多くの方に利用していただいております。特に、「かたらい」の中にあります「子育て支援センター」は、親子で遊ぶことができ、子育ての悩み相談もでき、市内はもとより市外からも多くの方がお見えになられております。その中で、保護者の交流が親密になり、3月18日には、子ども用品のおゆずり会が開催されるまでに広がっております。

その他にも、不妊治療助成や妊婦健康診査、小児時間外診療体制を充実させ、子どもの医療費助成の対象者を拡大するなど、家庭や子どもの成長に寄り添った切れ目のない支援を行ってまいりました。

それから、「都市基盤の整備」という面においては、国や県、JR九州と連携して、鹿島市の玄関口である肥前鹿島駅のバリアフリー化整備事業を実施いたしました。また、定住人口の増加や地域の活性化を図るため、古枝の「雇用促進住宅」を購入し、子育て世帯や市外からの転入者を受け入れる「

定住促進住宅」として運営してまいりました。さらに、民間の資金やノウハウを活用して公共施設を建設する手法、いわゆる「PFI事業」を取り入れ、旧鹿島警察署跡地に、中村住宅の整備を進めております。そして、道路整備につきましても、有明海沿岸道路の延伸計画や国道207号バイパスの4車線化の整備促進についての要望を中心に、国や佐賀県に強い働きかけを行ってまいりました。

続いて「環境保全」の分野につきましても、北鹿島の新籠地区に面している干潟が「肥前鹿島干潟」として平成27年5月にラムサール条約湿地に登録されたことにより、干潟の保全・再生だけではなく、干潟を支えている鹿島の里山や森、川の環境に対しましても市民の皆様の関心が高まってまいりました。また、この登録をきっかけに、干潟の保全・再生・活用を地域の活性化につなげていくよう、区長会や地区振興会、産業団体、環境団体などで構成された「鹿島市ラムサール条約推進協議会」で活動していただいているところでございます。

最後に、「地域資源を活かしたまちづくり」についても主な二つを申し上げます。一つは、平成23年度から取り組んでまいりましたスポーツ資源を活かした「スポーツ合宿」の誘致でございます。おかげさまで、今では箱根駅伝の常連校が毎年合宿を実施されるようになり、皆様ご承知のとおり、昨年は、箱根駅伝で4連覇の偉業を成し遂げた青山学院大学を含め、6大学151名の選手が鹿島で合宿されました。このスポーツ合宿の誘致は、単に鹿島でトレーニングしていただくということではなく、市民の皆様に広くスポーツについての関心を持っていただくとともに、多様な交流を実現して地域の活性化が図られることも目的としております。そして何より、子どもたちが、「陸上教室」や「合同練習」などを通して一流の選手と触れ合うことで、

技術向上だけではなく「ものの考え方」などを学び、未来の鹿島市を盛り上げてくれることを期待しております。

そしてもう一つは、昔ながらの町並みや日本酒など、鹿島の歴史・伝統・文化・風土を活かしたイベント「鹿島酒蔵ツーリズム」が全国的なものとなりました。鹿島は、今も造り酒屋が6蔵残っているほど、昔から酒造りが盛んな地域です。鹿島の町並みを歩きながら地酒を味わう、そして蔵人や地域の人との交流を通して鹿島を知ってもらい、あるいは、鹿島のファンになってもらう、そうして始まったこのイベントも、今では2日間で約8万人が訪れるイベントへと成長いたしました。ここまで築きあげてこられた関係者の皆様や地域の皆様に改めて深く感謝を申し上げます。

これまで振り返ってきたように、私は、先人たちが築き上げてきた鹿島市が誇るべき歴史や伝統、文化、ものづくりの力、マチのまとまりなどを受け継ぎ、それを最大限に活用し、市民の皆様と協働しながら「魅力あるマチづくり」に向けて市政運営を行ってまいりました。昨年の地方自治法施行70周年記念式典において、鹿島市が総務大臣表彰を受賞したことは、その集大成であり、これまでこうして市民の皆様と行政が一丸となって創意工夫をし、優れた施策を実施してきたことによるものだと考えております。

今後は、第六次総合計画で掲げている、目指す都市像「みんなが住みやすく、暮らしやすいまち」を実現へと近づけるため、これまで大きく動いてきた鹿島市のマチづくりをさらに一段上の高みへと引き上げていく必要があると考えております。

## 【ふるさと納税について】

次に、最近の情勢について申し上げます。

まず、ふるさと納税について申し上げます。

平成28年度に受入額が1億円に到達したふるさと納税ですが、今年度は有り難いことに全国から昨年度を上回る応援をいただき、昨年度のおよそ2.5倍、2億5千万円にあと少しといった状況でございます。

ふるさと納税の寄附者の皆様に、本市自慢の特産品を贈呈することで、本市産品を全国にPRし、ひいては地域の産業活性化につながるものと取り組んでまいりました。今年度は、本市の魅力ある特産品をより多くの方に知っていただくため、返礼品のラインナップを充実させ、広報を強化することに努めてまいりました。

今年度、全国にお届けした特産品を見ておりますと、「温州みかん」や「コメ」、有明海の「海苔」といった本市を代表する第一次産品が大変人気であり、リピーターになっていただいたり、寄附後に産品を直接購入したいとの申し出があったり、高い評価をいただいていることが伺えます。このことが、生産者の励みとなり、今後の生産現場での意欲向上につながってほしいと願っております。

#### **【コメ、温州みかん、海苔養殖の状況について】**

次に、農水産物の状況について申し上げます。

コメについては、ウンカの被害等もあり品質、収量とも心配しておりましたが、農業者の皆様をはじめ関係機関の皆様にご尽力いただいたおかげで、品質についても問題なく、作況は「やや良」となっております。

また、平成30年産以降、国による生産数量目標の配分、いわゆる「減反」が廃止されることになり、代わりに地域ごとに「生産のめやす」が設定されることになりました。今後は、コメの価格安定のために、鹿島市農業再生

協議会を中心とした、地域ごとの自主的な生産調整によりまして需要に見合った生産が開始されることになっております。

次に、温州みかんにつきましては、今年は裏年に当たり収量は例年より少なめですが、食味が良好で市場からの人気も高く、単価は前年比136%と高くなっており、販売も好調であると聞いております。

特に「根域制限高畝(たかうね)栽培」におきましては、産地の代表となる高品質みかん「祐徳みかん」や「さが美人」として数多く出荷されている状況であり、今後も、鹿島産みかんのブランド力向上のために支援してまいります。

それから、海苔養殖の状況でございますが、先日、冷凍海苔の3回目の入札があり、赤潮の発生などで有明海の海況が安定しない中ではありますが、累計での生産金額が前年比130%を超える結果となりました。今後も、全国の皆様に有明海の海苔のおいしさを味わっていただけるように、海苔の生産が安定することを願っております。

#### **【柳瀬頭首工について】**

次に、北鹿島地区などの水路の取水に欠かせない、「柳瀬頭首工」の新設について申し上げます。

現在の堰(せき)は、設置後約40年が経過して老朽化していることから、約15メートル下流にこれまでと同様の堰を、国と県、そして市の財源により新設するものでございます。来年度から工事に入る計画ですが、これまでどおり、用水を確保してまいりますので、地域の皆様のご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

## 【農業委員会の取組について】

次に、農業委員会の取組についてご紹介します。

農業委員、農地利用最適化推進委員の皆様には、農地行政をはじめ、耕作放棄地の解消に積極的に取り組んでいただいております。しかし、本年度の農地利用状況調査におきましては、遊休農地面積が700ヘクタール強となっているとの報告もお聞きしたところでございます。

そのような中で、農業委員など関係者の皆様のご尽力により、市内において新しい作目を導入し、相当規模の「農地再生」を行うことについて検討が進んでおり、市としましても、国や県に働きかけて、荒廃地の減少につながるように、積極的に協力をしたいと考えております。

## 【鹿島市フェアの開催について】

次に、鹿島市フェアの開催について申し上げます。

大都市圏において本市の情報発信やPRを行い、鹿島のファンづくり、ひいては交流人口の拡大を目指す取組の一環としまして、本年1月、東京都内と福岡市内の飲食店のご協力を得て、鹿島市フェアを開催いたしました。

東京では1月5日から31日までの27日間、昨年7月に続く2度目の開催となる福岡では、1月11日から2月12日までの1か月間、今回2大都市での同時開催となり、鹿島市の知名度向上を図ったところでございます。

期間中は、どちらの店舗におきましても、鹿島の酒はもちろんのこと、鹿島産の野菜や有明海の水産物を使った料理の提供、さらには店内の一角において本市特産品の紹介を兼ねた展示販売などを行いました。また、店内には鹿島の観光やふるさと納税、移住促進についてのパンフレットを設置し、さらには、3月末に開催されます「酒蔵ツーリズム」の紹介なども行ってきた

ところでございます。

東京と福岡を合わせて、期間中は約1,500名のお客様の来店があり、感想を伺いましたところ、「鹿島市のことを知らなかった」とか、「ぜひ酒蔵ツーリズムに行ってみたい」などの感想が寄せられたほか、鹿島市出身の方からは、「また鹿島市フェアを開催してほしい、もっと鹿島市のことをPRしてほしい」などの有り難いご意見も頂戴し、大変な好評を得たところでございます。

また、開催しました飲食店からの鹿島の酒や食材に対する評価も大変高く、フェア開催について、一定の成果が得られたと感じております。

今後もこうした取組を継続し、広く全国に鹿島市を知ってもらうことで、鹿島のファンづくり、さらには交流・定住人口の増加につなげてまいりたいと考えております。

### 【肥前浜駅の駅舎改修について】

次に、肥前浜駅の駅舎改修についてご報告申し上げます。

今年度、県が主体となり、10月から着手いたしました肥前浜駅の改修工事も、市や地元等との協議が持たれて、3月末には完成するスケジュールで順調に進められているところでございます。

事前準備の段階では、昭和初期の木造駅舎の魅力を活かしつつ、より利便性の高い施設とするために、長年の課題でありましたトイレを別棟で新たに設けることに合わせ、駅舎も一部増築等を含めて昭和初期における姿への復元を原則として駅舎の履歴調査を行いながら、協議を重ねてまいりました。

今回の肥前浜駅の改修工事に当たりましては、県をはじめ、関係者の皆様には、各方面でのご指導、ご尽力をいただきましたことに、改めて感謝申し

上げます。

現在、3月の完成を間近に控え、鹿島酒蔵ツーリズムの初日であります3月24日の土曜日に、「肥前浜駅オープニング式典」を開催する運びで、県やJRと調整をしているところでございます。

また、オープニング記念イベントといたしまして、長崎本線の沿線自治体であります、太良町・江北町・白石町と連携し、合同の物産展を開催いたします。鹿島酒蔵ツーリズムの2日間をPRの機会と捉え、地元の皆様はもちろんのこと、市外から肥前浜宿にご来場いただく大勢のお客様に、リニューアルした駅舎をご利用いただくとともに、完成と一緒に喜んでいただけるものと確信しております。

#### **【鹿島市中村住宅整備事業について】**

次に、鹿島市中村住宅整備事業について申し上げます。

この住宅につきましては、PFI事業により北鹿島中村区の旧鹿島警察署跡地に、複数世代の入居者を対象として鉄筋5階建て40戸の整備を計画しており、現在、建設・維持管理・運営を行う特別目的会社のSPC（北鹿島中村住宅株式会社）と協議を重ねているところでございます。

今回、SPCを組織するほとんどのメンバーは、市内企業であることから、連携が取り易いという利点を生かして、平成30年度中の完成に向けて進めており、建築確認が完了する来月には、現場での建設準備を開始する予定でございます。

また、入居者の募集時期や募集方法につきましては、SPCと協議を行い、関係する条例改正などの議案を来年度の市議会定例会にご提案させていただき、手続きを進めてまいりたいと考えております。

今回の整備につきましては、PFI事業の特性である民間と行政との連携により、住宅入居待機者の解消や移住・定住人口の増加、地域の活性化を図ることも目的としておりますので、議会の皆様のご理解、ご協力を賜りますよう、よろしくお願いいたします。

### 【市民球場の改修工事について】

次に、市民球場の改修工事についてご報告申し上げます。

市民球場は平成13年に建設されて以来、野球やソフトボールの競技の場として、子どもから大人まで多くの方々にご利用いただいております。

整備から一定の期間が経過してきている中で、安全・安心な競技環境で利用していただくため、また、今後予定されている佐賀国体などの開催に備えるため、今年度、「スポーツ振興くじ助成金（totoの助成）」と県の補助を受けて改修を行っております。

具体的には、内野と外野の芝の段差を解消するための「内野グラウンド」の改修工事、それから今まで設置されていなかった「バックスクリーン」を新たに設置する工事を行っており、今月末までに完了する予定でございます。

今後も、利用者にとって使いやすく安全で安心なスポーツ環境の提供ができるように取り組んでまいります。

### 【国民健康保険の運営について】

次に、国民健康保険の運営について申し上げます。

国民健康保険の運営は、いよいよ平成30年4月から佐賀県と県内の市町の共同運営となります。

広域化により、これまでそれぞれの市町単位で運営していた国民健康保険

は、県が財政運営の責任主体となり、市町が徴収した国民健康保険税の中から、県に国民健康保険事業費納付金を納めることで運営されることとなります。市町では引き続き、被保険者の資格管理や税の賦課徴収、窓口業務などを担当していくこととなります。

この制度を運営していくための国民健康保険税については、市町が税率を決定する際の参考とするために、県が標準保険税率を示すこととされておりますが、今年1月末に佐賀県から通知がなされたところでございます。

鹿島市におきましては、これまでの税率より引き上げなければならないという内容ではございませんでした。この結果を受けて、平成30年度の税率の検討を行った結果、現行税率を据え置くことといたしました。この税率について、国民健康保険運営協議会に諮問をし、答申をいただいたところでございますが、委員からは、今後も国民健康保険については厳しい財政状況が予想されるため、今後の税率の上昇に不安があるとの意見がございました。共同運営だからといって楽観できる状況ではないと考えており、平成30年度にその運営がスムーズに移行できるように取り組むとともに、国民健康保険税の収納率向上、医療費適正化事業、保健事業に取り組み、財政運営の安定化を図っていかなければならないと考えております。

共同運営となりましても、被保険者の皆様の健康を守り、これまでどおり安心して医療が受けられるよう取り組んでまいりますので、ご理解をいただきますようお願いいたします。

それでは、提案いたしました案件について、その概要を説明いたします。議案は、当初予算、補正予算など合計16件でございます。

#### 【平成30年度予算案について】

まず、議案第 1 号 平成 30 年度鹿島市一般会計予算について申し上げます。

わが国の経済は、本年 1 月の内閣府の月例報告によりますと、「雇用・所得環境の改善が続くなかで、各種政策の効果もあって、緩やかな回復が続くことが期待される。」とされており、昨年度と比較しますと雇用情勢や個人消費などについて更なる回復傾向にあります。

また、引き続き震災からの復旧・復興に向けて取り組むとともに、デフレからの脱却を確実なものとし、経済再生と財政健全化の双方を同時に実現していくこととされております。

本市におきましても、景気回復の影響により個人市民税等は増加傾向にはありますが、国庫補助金や地方交付税については、依然として減少しており、地方自治体を取り巻く状況は、引き続き厳しい状況にあります。

このような経済、財政状況を背景に、鹿島市の平成 30 年度の予算編成に当たっては、「第六次鹿島市総合計画」の理念に沿った市政運営を基本とし、実施計画と中期財政計画、これに国が示す「地方財政計画」の指針を踏まえて予算編成を行うことといたしました。

また、平成 30 年度は市長改選期に当たり、当初予算は骨格予算となりますが、第六次総合計画で掲げている「定住促進」「子育て支援」などの実現に向けた継続的な事業などを計上しているため、総額は 137 億 3,000 万円となっており、平成 29 年度当初予算と比較いたしますと 6.6% 増となっております。

なお、選挙後の 6 月定例会において新市長の施政方針に基づき、新規施策などの政策的経費を加えた補正予算を提案することになります。

歳入では、主要一般財源である市税が、個人市民税や固定資産税の増加に

より3.5%の増となる見込みでございます。地方交付税は、地方財政計画によると全体枠で2.0%減とされておりますことを踏まえ、1.4%減で計上いたしております。

一方、歳出につきましては、人件費、扶助費、公債費のいわゆる「義務的経費」は、それぞれ増額となり、3.2%の増となっております。

また、物件費、補助費等を含む「消費的経費」全体では3.1%の増となっております。

市債残高につきましては、平成12年度の138億円がピークでありましたが、平成30年度は111億円の見込みとなり、地方交付税で償還費が全額措置される臨時財政対策債を差し引くと、実質的な市債残高は、63億円程度となり、この償還につきましてもさらに約4割の交付税措置が見込まれております。

投資的事業につきましては、全体で前年度比40.6%増で計上いたしており、うち補助事業は、「強い農業づくり交付金事業」などの増により86.2%の増となっております。単独事業につきましては、「蟻尾山公園整備事業」などの減により12.2%の減となっております。

主な事業としましては、農林水産業関係では、「農業基盤整備促進事業」「水産基盤ストックマネジメント事業」、商工関係では、「道の駅鹿島整備事業」、土木関係では、「市営住宅建設事業」「辺地道路整備事業」、教育関係では、「小学校大規模改造整備事業」「給食センター厨房施設整備事業」などを計上いたしております。

これら施策の主要財源となります市税や普通交付税の動向には、なお不透明な部分もございますので、当初予算の編成段階では、財政調整基金から2億5,000万円、公共施設建設基金から1億5,400万円の繰り入れ

を計上いたしており、また、市債では臨時財政対策債を3億7,000万円発行することで、一般財源所要額の確保を図っております。

今後、税収や地方交付税の動向を注視しながら歳入確保の努力と、歳出削減や効率的な事業運営の努力を続け、第六次総合計画の各事業の推進を図っていききたいと考えております。

続いて、議案第2号から議案第7号までの6議案について申し上げます。

これらは、平成30年度の各特別会計及び水道事業会計の予算案でございますが、各会計につきましても、一般会計と同様に財政状況を勘案しながら、健全な財政を維持し、かつ、効率的な事業運営を目指し、予算編成を行っております。

#### 【平成29年度補正予算案について】

次に、議案第13号平成29年度鹿島市一般会計補正予算（第6号）について申し上げます。

今回の補正は、年度末を迎えるに当たり、主に決算見込みや事業の確定に伴う経費の増減などについて計上いたしており、予算の総額から、9,436万9千円を減額し、補正後の総額を140億3,492万円といたすものでございます。

このうち歳入では、市税の決算見込み額を計上し、加えまして事業確定に伴う国県支出金、基金繰入金、市債などの増減調整をいたしております。

歳出につきましては、事業の確定に伴う経費の増減が主なものでございますが、今回、国の補正予算に伴い「佐賀県漁業経営構造改善事業」を新たに計上いたしております。

また、佐賀西信用組合様ほか1名様から青少年教育のためにご寄附をいただきましたので、ご寄附の趣旨に沿って有効に活用させていただくことといたしております。

さらに、基盤整備促進事業など10事業につきましては、諸般の理由により平成30年度に繰り越して支出する必要があるため、繰越明許費も合わせて提出いたしております。

続いて、議案第14号 から 議案第16号 までの3議案についてでございますが、これらは、平成29年度の各特別会計の補正予算案であり、主に決算見込み及び事業費確定による補正となっております。

#### 【その他の議案について】

次に、予算以外の案件についてでございますが、内容は、条例制定2件、条例改正3件となっております。

はじめに、新規条例制定に関する議案2件について申し上げます。

まず、議案第8号 「鹿島市旧乗田家住宅設置条例」の制定について申し上げます。

これは、市の文化財である肥前浜宿の旧乗田家住宅について、文化財としての保全と活用を図るために、設置条例を定めるものでございます。

次に、議案第9号 「鹿島市移住体験施設設置条例」の制定について申し上げます。

これは、肥前浜宿の茅葺町家である旧筒井家住宅について、鹿島市への移住を希望される方を対象に移住体験施設として活用するため、設置条例を定めるものでございます。

続いて、条例改正に関する議案3件について申し上げます。

まず、**議案第10号**「鹿島市個人情報保護条例及び鹿島市情報公開条例の一部を改正する条例」の制定について申し上げます。

個人情報の保護に関する法律及び行政機関の保有する個人情報の保護に関する法律の一部を改正する法律などの施行に伴い、その趣旨を鑑み、個人情報の定義及び要配慮個人情報の取扱いの規定を明確化するために、所要の改正を行うものでございます。

続いて、**議案第11号**「一般職の職員の退職手当に関する条例等の一部を改正する条例」の制定について申し上げます。

これは、一般職の退職手当を国家公務員の支給水準に準じて改定するものでございます。

最後に、**議案第12号**「鹿島市国民健康保険条例等の一部を改正する条例」の制定について申し上げます。

国民健康保険法等の一部改正に伴い、国民健康保険の広域化等に伴う改正を行うものでございます。

広域化については先程ご説明したとおりですが、具体的には、市町から県に納付する「国民健康保険事業納付金」の創設や、県内市町で異なる葬祭費の金額を統一するために、所要の改正を行うものでございます。

以上、提案いたしました議案の概要について説明いたしました。詳細につきましては、ご審議の際、担当部長又は課長が説明いたしますので、よろしくご審議いただきますようお願い申し上げます。